

令和6年度 学校経営計画

教育目標

豊かに感じ、よく考える子ども（重点）
友達の良さが分かり、助け合う子ども
心身をきたえ、明るく生きていく子ども

目指す学校像

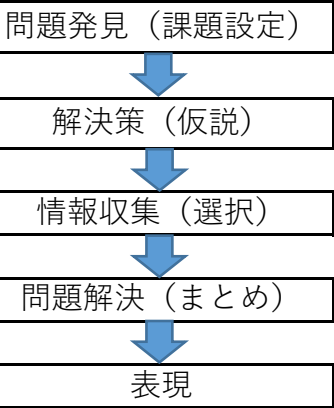
児童にとって明るく、楽しく、安心して過ごせる学校
保護者・地域に信頼される学校

目指す児童像

互いに認め合い、支え合い、高め合う児童

最重点取組

協働的問題解決型学習による情報活用能力の育成



左のようなプロセスを通して、児童が自力のみならず、協力しながら必要な情報を集めたり、精選したりしながら問題を解決する。また、解決したことを相手に分かりやすく表現できるようにする。このことにより、情報活用能力を向上させる。

（具体的方策）

- ペア（トリオ）学習・グループ学習を用いた学び合いの場を設定
⇒「分かった・できた喜び」「学ぶ楽しさ」を実感させる。
- 学校図書館・公立図書館を活用した調べ学習
⇒児童の実態に合った正しい情報の収集方法を身に付けさせる。
- タブレットの活用
⇒より高度な情報の収集、アプリによる児童同士の情報共有、プレゼンテーション等の作成。

情報活用能力を支える基礎的・基本的な知識・技能の習得

- 朝学習、家庭学習の充実およびタブレット端末の活用
- 東京ベーシックドリル、全国学力学習状況調査過去問の取組
- 教科担任制（高学年）の拡充による授業のさらなる充実
- 端末活用を通じた情報モラルの育成

重点取組

豊かな心・人間性の育成

特別支援教育についての理解促進

- ひまわり学級と通常学級との交流学习
- リーフレット「[himagari]」の発行
- 特別支援教室「きらりだより」の発行
- 特支コーディネーターによる充実した相談体制の構築
- 副籍交流の実施

道徳授業の充実

- 道徳授業地区公開講座の開催
（令和6年度テーマ「郷土愛」）
- 校内研修体制の強化

あいさつ運動の継続

- 全学年児童によるあいさつ運動の継続
- 児童会活動での取組強化
- 学級指導の充実

その他の取組

- 体力向上（体力テスト活用授業、体力向上旬間）
- 外部人材活用（ピュアシルクほか）
- 各種コンクール参加（調べ学習、読書感想文ほか）
- 十小ファームを活用した農業体験・食育の推進

令和6年度 新規事業について

教科担任制（高学年）の完全実施

- 理科、音楽、図工、体育の授業を専科教員が行う。
- 学級担任は、専科以外の教科等を分担して授業を行う。
- 専科・きらりの教員は、副担任として全学年に配置する。

ひまわり学級の開級

- 通常学級での交流学习を主体としながら、児童の特性等に応じた個別指導を展開。
- 学級内異学年交流により、上級生のリーダーシップの醸成を図る。
- 広報活動により、児童・保護者の特支教育に関する理解を促進。

コミュニティスクール

- 学校運営協議会による学校経営への参画。
- 学校支援本部、ひまわり105、避難所運営協議会など、地域と連携した教育活動を模索。

小中連携教育

- 教育指導課主体に実施
- 小中連携合同研修会を実施
年2回（5月、10月）
- 五中学区としての方向性を検討
- 授業交流（相互参観）
- 五中学区の特徴を生かした教育連携

教育活動の質の向上

- 教員一人当たりの教材研究時間を短縮。1教科当たりの教材研究時間を延長することにより、授業の質を向上させる。
- 同じ授業を3回行うことで、授業の質を向上させる。
- 教科担任、副担任により、児童が接する教員数が増加。これにより教育相談体制も充実させる。
- 中学校への円滑な進学を可能にする。

豊かな心の育成

- 交流学习を通じて、児童が互いのよさや違いを認め合えるようにする。
- 個別学習を在籍児童に行うことで、学習での困り感を低減し、学ぶ意欲を持続させる。
- ひまわり学級内で活躍の場を設けることで、通常学級ではなかなか味わえない達成感や満足感をもてるようにする。

学校づくり×地域づくり

- 地域人材の意見を反映させ、地域の実情に応じた学校づくりを推進する。
- タ涼み会、焼き芋会など、地域のシンボルのイベントを学校で行うことで、子供たちの地域を愛する心情を育てる。
- 地域と保護者が交流する場を設け、地域の活性化に貢献する。
- 十小ファームでの交流促進。

9年間を見通した教育活動

- 「身に付けるべき5つの力」を柱にした系統的な指導体制を構築する。
- 「花のチカラプロジェクト」など、小中連携を活用した、地域との交流活動を模索する。
- 教員同士の交流を促進し、児童の円滑な進学をサポートできるようにする。